

九条だより

第137号

北広島九条の会 2019.05.01 発行
事務局 梁川彰博 (ヤガワ アキヒロ)
TEL・FAX 375-9600
メール kitahiro-9jounokai@live.jp
ホームページ www.kitahiro9.org

□□□□ □□□□ □□□□ □□□□ □□□□ □□□□ □□□□ □□□□ □□□□

5月3日 憲法記念日

第12回 「平和のうたごえ喫茶」

午前11時～午後1時半 エルフィンパーク

出演 北海道合唱団 女声コーラス「エーデルワイス」
新婦人小組「わたげの」 アンサンブル kira

入場は無料。歌集(第1が200円、第2が100円)。飲み物200円でお代り自由、お茶、コーヒー、ジュースなど。アグリさんのご提供で「9条パン」を販売します。輪厚窯山崎信勝さんから参加者へ焼き物の贈り物があります。

□□□□ □□□□ □□□□ □□□□ □□□□ □□□□ □□□□ □□□□

4月19日現在で1450筆に到達。市内各団体の合計で7千筆超える。

安倍9条改憲NO！市民アクションの全国署名

5月3日・憲法記念日を全国総決起で3千万筆めざして取り組みます。

◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇

4月7日投票の北海道知事選で石川知裕氏が健闘。道議選北広島市で

小岩均氏が再選。市民と野党の共同を粘り強く前進させる。

4月7日、統一地方選挙の前半戦が終わりました。全国注目の道知事選は、石川氏が敗れたものの善戦健闘、百万票に迫る支持を集めました。石川氏は正々堂々、①憲法9条改定に反対、②貧困・格差をなくし福祉・教育の充実をはかる、③一次産業、中小企業を大切にする、④原発のない北海道、再生可能エネルギーで地域づくりをすすめる、を掲げました。また焦点の「カジノ誘致反対」「鉄路を守る」「脱原発」について積極的に訴えました。対する鈴木氏は、何の政策も明示せず、争点隠しに終始しました。道民目線はどうなのか、しっかりと監視していきたいと思えます。

同時に行われた道議選では、現職の小岩均氏が3千票余りの差をつけて再選を果たしました。市民連合北広島は小岩氏との間に、政策協定を結び勝利に貢献しました。市民と野党の共闘をさらにすすめ、7月の参院選では安倍政権に痛打を与えましょう

◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇

◎5月の行動 「9の日行動」・「19の日行動」を行います。

5月9日(木)、5月19日(日)いずれも午後1時半、JR北広島駅西口です。

「スタンディング」、チラシの手渡し、署名のお願いなど、皆さん思い思いのやり方で続けています。暖かくなってきました。皆さんのご参加をお待ちしています。

4月例会 「朝米問題、どうとらえるかー東アジアの平和のために」

4月7日（日）団地住民センターで22名の市民の参加で、第73回例会を開きました。講師は、林 炳澤（イム・ピョンテク）さん。在日韓国人（2世）として、祖国統一、在日同胞の権利擁護の運動に長く取り組んでこられました。「日本の戦後責任を清算するため行動する北海道の会」、NPO法人さっぽろ自由学校「遊」などの共同代表を務め、また日本の友人たちと広く連帯し平和と人権のための活動をされています。昨年、朝・米間で、70年の激しい敵対関係を越えて史上初の現役首脳会談が実現しました。朝鮮民主主義人民共和国の安全保障と朝鮮半島の完全非核化をめぐりトップダウンの交渉が始まりましたが、今年2回目の首脳会談は“もの別れ”という結果に終わりました。これらの会談の結果を正確に評価するためには、以下の3つの視点を押さえる必要があると言います。

1. 南北分断に至る歴史を知る

第2次世界大戦終了後、朝鮮は日本の植民地支配から解放され、国家建設に向かいます。当初、北緯38度線を境に米ソ分割占領となりますが、民族主体勢力として、建国準備委員会（建準）が設立、組織化されていきます。しかし、共産主義の拡大を恐れた米国は、朝鮮情勢にくわしく利害の一致する反共・親日派を利用し、民族主体運動・民族統一運動の抑え込みを行っていきます。モスクワ協定も反古とし、米国は、国連（米の影響力大）に朝鮮問題を付託するという形で南部朝鮮の単独選挙を断行、大韓民国を唯一合法政府とします。この間、米軍政は済州島（チェジュ島）4・3抗争などの反対運動を弾圧し、2万人以上の犠牲を出しています。そして、北からの侵攻を機に朝鮮戦争が勃発、1953年の休戦で南北分断が固定化しました。

2. 民族分断の痛みを理解する

朝鮮戦争（1950－1953年）は、同じ民族同士の殺戮があり、朝鮮半島への甚大な被害と約1千万人の離散家族、そして南北間の憎悪を生みました。この南北分断の悲劇は、もとは日本の植民地支配に端を発したとも言え、他人事では済まされません。隣国の苦しみに寄り添い、南北融和のために日本ができる貢献は、いくらでもあるはずで、（スポーツの世界では、1991年の卓球世界大会（千葉）南北統一チーム結成へ、日本人の働きかけがありました）

3. 平和解決を求める、という立脚点に立つ

日本では、「北朝鮮悪玉論」が染み付き、「北の完全非核化」に偏重した評価が主な論調となっています。これは日本がアメリカ社会に組み込まれていることにもよります。しかし、戦争を起こさせない、そして真に平和を求めるのであれば見方は変わってくるはずです。朝・米間の国力の格差を考えれば、先に譲歩策を打ち出すべきは米国側ではないでしょうか。朝鮮戦争の終結も含めて“もの別れ”に終わったとはいえ交渉の継続意思は示されています。朝鮮半島での平和の構築のために、日本がアメリカに働きかけるべきは、圧力の強化ではないはずです。

◇◇◇◇◇ ◇◇◇◇◇ ◇◇◇◇◇ ◇◇◇◇◇ ◇◇◇◇◇ ◇◇◇◇◇ ◇◇◇◇◇ ◇◇◇◇◇

◎お知らせ 市民の戦争体験を伝える「バトンタッチ」第8集が刊行。13名の市民の方の玉稿と「旧陸軍北広島通信所シンポジウム」の記録を掲載。頒価300円。

◎**募金のお願い** 当会は会員制をとっていません。会の活動は皆さんの浄財が頼りです。

是非ご協力を。 郵便振込み口座・北広島九条の会 02790-9-65384